

天龍村まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略



概要版

各計画の期間

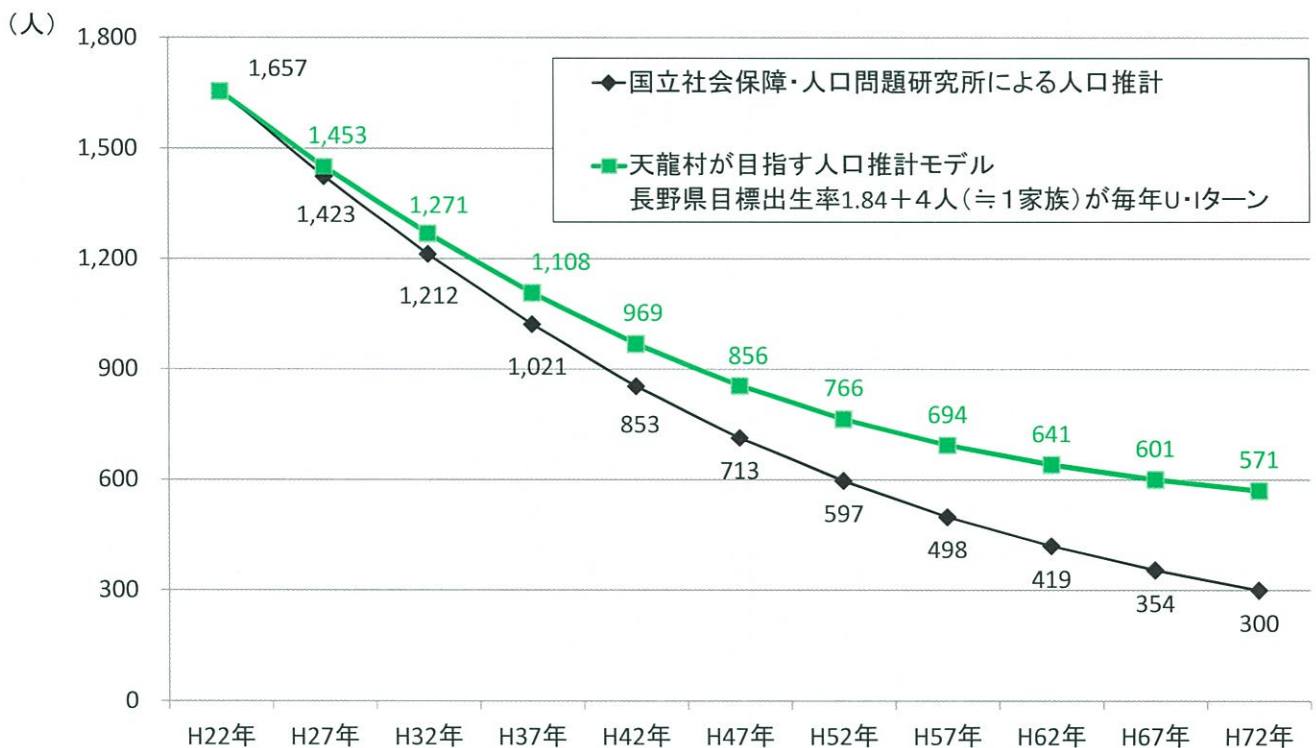
人口ビジョンは平成 52 年度（2060 年度）までの中期的な展望を描いたもので、具体的な施策としての総合戦略は平成 31 年度までの 5 か年とします。

平成 28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	32 年度	33 年度	34 年度	35 年度	36 年度	37 年度
----------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

人口ビジョン	平成 27 年度より平成 52 年度までの中期展望を描く（適宜見直し）									
総合戦略	平成 27 年度より 5 か年									

天龍村まち・ひと・しごと創生人口ビジョン

本村では長野県人口ビジョンで示された県民希望出生率 1.84 となった上で年間 4 人が U・I ターン等で本村に流入してくることをモデルとしたシミュレーションを想定しました。



1. 出生数の向上

村の活性化と産業の維持を実現するためには、出生率・出生数の維持向上が求められます。出生数を維持向上することにより、人口構造の若返りが実現し、高齢者を支える現役世代の割合も減少を抑えることができます。そこで、結婚・出産・子育てにおける切れ目のない施策を実行しながら、就労面においても安心して子育てできる支援を推進していきます。

2. 転入者数の増加

安定した社会の構築を実現し、出生数の維持向上を果たすためにも、若年者の転入促進は最も重要な条件と考えられるため、若者や世帯を中心に施策を展開するほか、再び本村での暮らしを望む方へのサポートに努め、年間4人の転入者数増加を図ります。

広大で豊かな自然環境や歴史と伝統のある郷土文化等の彩り豊かな魅力ある地域資源を活用し、新たな可能性を生み出すことで小国寡民をともに志す転入者も現れます。さらに、自然豊かで伝統ある郷土文化を再認識し、村内外へPRすることで、住みたい村へとするための施策を推進していきます。

天龍村まち・ひと・しごと創生総合戦略

「出生率の向上」と「転入者数の増加」の2点に着目し、各種分野において横断的な施策を長期的な視点をもって確実に実行することとします。さらに、本村の資源を最大限に活用しながら、定住人口や交流人口を増加させ、地域経済力を高める具体的かつ効果的な取り組みをより積極的に推進し、本村の創生を果たします。

計画の進捗管理

総合戦略は、村民、地域、団体、企業、行政等村全体で共有し、協働して推進する計画であるため、計画策定（Plan）、推進（Do）、点検・評価（Check）、改善（Action）の各過程においても、村全体が関わる体制を構築し、高い実効性を確保することが重要です。

そこで、庁内の策定・推進組織として、村長を本部長とする天龍村総合戦略推進本部を置き、村内各界各層とともに推進・検証する審議会（有識者会議）を設置します。また、二元代表制の両輪となる村議会においても、策定段階や効果検証の段階において確認に参画するものとします。併せて、本村地域のみでは対応できない課題等においては、必要に応じて、国や県、近隣市町村との連携を図ります。

また、総合戦略の推進にあたっては、政策分野ごとの基本目標と具体的な施策を示し、各施策の効果を客観的に検証できる指標（重要業績評価指標（KPI））を設定し、PDCAサイクルにより、実効性を高めます。また、目標値としてのKPIとは別に、事業の進捗や結果が芳しくない場合には、事業の改善を早急に行うか、あるいは事業そのものの見直しを図ることが重要であると考え「見直し値」として事業継続に向けた評価の下限値をあらかじめ設定し、より実現性の高い進捗管理体制を構築しています。



評価指標

1. 誰もが安心・安全に暮らせるむらづくり

子どもから高齢者までが安心して暮らせる安全な環境整備に取り組みます。子育てでは、保育所や学校、地域等が協力し、地域全体で子どもが健やかで元気に成長できるような環境づくりに取り組みます。また、開かれた学校づくりに努め、地域発の豊かな学びを通して天龍村でなければつけられない力である「天龍力」を育む環境づくりを推進します。高齢者支援では、住み慣れた地域でいきいきとした生活を送るために、交通弱者の通院や買い物への支援、閉じこもり防止や認知症予防のための体制づくり等の活動への支援に取り組みます。

施策	評価指標 (KPI)	目標値
多様な出会いの場の創出	婚姻件数	8件
若い世代の出産・子育てへの支援	出生数の増加	6人
	県立阿南病院への産婦人科誘致等に対し、近隣自治体と連携した要望活動の実施	指定なし
地域ぐるみの子育て環境づくり	元気で強い子どもに育てる (福祉医療費における総医療費額)	4,800,000円
	「天龍力」を育てる地域との交流活動	50回
安心・安全な健康長寿のむらづくり	健康寿命	延伸
	寝たきり老人 (要介護4以上に認定された人)の数	減少
生活基盤の安定を図り 安心して暮らせるむらづくり	公共施設の耐震化	100.0%
	消防団員数の維持	50人
	村道の改良率	41.8%
	携帯電話サービスエリア外地域の解消	2地区

2. 新たな人の流れを生み出し活気のあるむらづくり

村外への人口流出を抑制し、一度村外へ出た若者が再び戻るとともに村外からの新たな人の流れを生み出し定住を促すためには、都市部との生活の違いを山村の観光資源と捉えることが重要です。本村の魅力を発信しイメージアップを図り、関係機関と連携し、本村ならではの多彩な資源を積極的に活用することで交流人口の増加を目指します。また、地域の理解を得る中で、都市住民との交流促進や農業体験を中心とした体験型観光の推進によって本村を訪れ、村の魅力に共感する人を増やすことにより、特産品の販売拡大、来訪者・移住者の増加を図り着実に社会増を目指します。さらに、本村に必要な人材として、若者の介護職員を雇用することで、安心して働くことができる環境を整備します。また、村内に散在する地域資源を更に活かし守りながら生活基盤や環境整備を進めます。

施策	評価指標(KPI)	目標値
若者が新規就業を目指したくなる 農林水産業の振興	農林水産業への新規若年 (40歳未満) 就業者の増加	8人
活気ある産業で雇用が生まれる むらづくり	就業率の向上	98.0%
	工業技術センター・EMCセンター利用件数	1,200件
	共同研究講座学位取得者数	10人
村の魅力発信	Facebook(フェイスブック)の 「いいね」件数	2,500件
	Twitter(ツイッター)の 「フォロワー」件数	1,000件
着地型の観光産業の醸成	長期滞在型観光プログラム利用者数	50人
	田舎生活体験プログラム利用者数	30人
観光拠点施設の拡充、地域振興等の 機能向上	天龍温泉おきよめの湯への交流人口増加	6.00万人
	ふれあいステーション龍泉閣への 交流人口増加	6.50万人
	和知野川キャンプ場、 大河内森林公園の利用増加	3.00万人

3. 天龍村の魅力を活かした住民主体のむらづくり

都市部から本村への移住・定着に結びつけるための定住促進策として、自然豊かなゆとりある住宅地の整備や高齢化社会に対応した居住地としての条件整備を充実します。また、空き家や宅地情報を管理することで、U・Iターン者や定住希望者の需要に応える空き家情報登録制度の充実に努めます。さらに、地域おこし協力隊制度を引き続き推進し、魅力ある人を育て活かすことで、村全体の魅力を向上し、村民一人ひとりが誇りの持てる村を目指します。

施策	評価指標(KPI)	目標値
住民参加のむらづくりの推進	村政出前講座の開催	3回/年
	各種活動支援事業	10件/計画期間
若年世代等の定住促進	若年者(20-39歳)転入数の増加	50人/年
	地域おこし協力隊員の任期後の定住	3人/計画期間
	毎年1家族(4人)の転入促進	5家族/計画期間
起業やコミュニティビジネスの 支援による新たな働く場の創造	起業・ビジネス立ち上げ支援数	1件/年